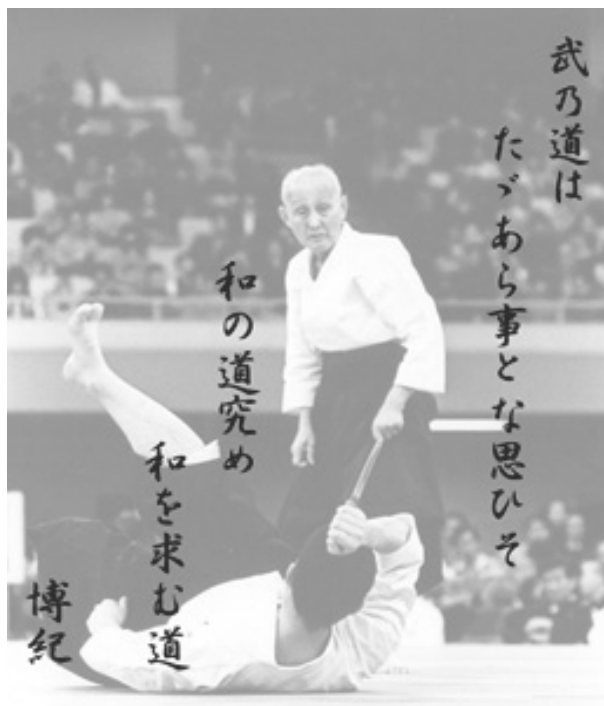


NETWORK VOL.145

TERRA



■「つよくやさしく・やさしくつよく」

新年あけましておめでとうございます。

昨年中も、皆様に支えられてとても充実した1年となりました。今年も遠慮なくもたれかかっていきますので変わらぬお付き合いをお願い申し上げます。

さて、和道流空手道古賀道場は『つよさ』と『やさしさ』を養う場所であります。そこでの指導を任せられて4年が過ぎました。その間、私自身も修行の身と思いながら、生徒さんと一緒に『つよさ』と『やさしさ』を探求している次第であります。が、しかし、依然、己に勝てない歯がゆい毎日でございます。

もともと、己に勝てない弱い人間だから空手道を必要としているのであり、また、最初から強い人間などいないのであります。欲に負け、辛さに負け、油断をする。と楽しい方へ楽しい方へ、楽な方へ楽な方へと行ってしまうのが弱さです。

古賀道場では沢山の生徒が日々、「弱さ」と向き合いながら稽古に励んでおります。ときには、辛い稽古に挫折そうになり、時には厳しい結果に心が折れそうになりながら、何とか踏ん張って頑張っております。

今年も、そんな生徒の皆さんと共に、自分の弱さと向き合って頑張っていきたいと思っております。いつの日か、『真の強さ』と『真の優しさ』を修得し世界を平和へと導いてくれる、そんな人材が生まれることを願いつつ…。

2012年が皆様にとって幸多い年となりますように祈念いたします。

和道流空手道古賀道場 古賀 大之

CONTENTS ■ 2012冬

古賀武夫先生の言葉を迎える
敬天愛人 ―一隅より、世を照らさん― Vol.7
『良い(利他的)行いには良い結果を、
悪い(利己的)行いには悪い結果が用意されている』
大野 博之 2

■地球市民の会

和顔愛語	佐藤 昭二	3
東日本大震災、被災地は今、		4~5
今、被災地で求められること。私たちの出来ること。		6
ミャンマー通信		7
タイ&スリランカ便り ~里親の会 特集~		8
ベジボーイズ主催の感謝祭		9
東日本大震災支援チャリティCD紹介		10
協力者一覧 認定 NPO 法人 地球市民の会 女性理事公募		11

■夢の学校をつくる会

地球丸ごと「わ」になろう!!	12~13
----------------	-------

■和道流古賀道場

道場通信	14
------	----

■古賀英語道場

英語的思考のススメ Vol.7	15
-----------------	----

■共同執筆

1~3月のお知らせ	16
-----------	----



敬天愛人

—一隅より、世を照らさん—

Vol. 7

『良い(利他的)行いには良い結果を、
悪い(利己的)行いには悪い結果が用意されている』

大野 博之

前号に引き続き「古賀武夫ブックレット 第三号『敬天愛人—一隅より、世を照らさん—』」から、古賀先生の一九九三年(平成五年)の言葉を辿ります。三回シリーズと前号でご案内しておりましたが、この年の発信は質も量も膨大で三回ではご紹介出来ませんでしたので、四回シリーズとさせて頂いた上、その第三回目をお贈りいたします。

阪神淡路大震災(平成七年)が「ボランティア元年」と呼ばれ、東日本大震災(平成二十三年)については「利他的生き方元年」と呼ぶ向きがあります。ところが、古賀先生は平成五年に、すでにボランティアについても利他的行いについても、言及されていました。

あかるく、たのしく、げんきよく

「あかるく、たのしく、げんきよく」は古賀道場のキャッチフレーズですが、このような状態とは「幸せ」な状態であるという事で、「あかるく、たのしく、げんきよく」な状態で「みんな幸せになりましょう」と主張されていたのだと思います。では、そのような幸せな状態になる為にはどうすればいいのか、についてパラゴの言葉が引用されています。

「白人は、私たちサモアの人間に『頭を使わないお前たちは馬鹿だ』と言う。しかし、私たちから見れば、頭を使いきる白人たちは病気だ」とか言いようがない。いったいどちらが馬鹿なのか。」

効率よくする為に頭を使う、儲ける為に頭を使う。それは重要な事だ。だが、何のためにそうしなければならないのか。それは『幸せ』につながるののか、それがなければ『幸せ』ではないのか、と古賀先生は問いかけます。それよりはむしろ、「しち面倒臭く」頭を使っただけでなく、全体をつかかって『幸せ』を感じてた方がいいのではないかと問いかけてもあつたのでしょうか。

古賀先生は「脳の中に視床下部という小指の先ほどの小さな器官が人間の心のすみかであり、宇宙とつながるトンネルがある場所だ」と指摘し、ここを成長させる為に頭を考えさせるのではなく、身体に考えさせなければならぬと話されています。「身体に考えさせる」とは難しい事です。どうやう、「あかるく、たのしく、げんきよくなる事を」ということで可能だという事を伝えているのです。

では、「あかるく、たのしく、げんきよくなる事を」とはどういうことでしょうか。古賀先生は「自分を宇宙の流れに置く事です。そのためには、無垢な自分を悪の道に誘惑しようとする馬鹿な頭にはついていかなければ」とおっしゃっています。これでもわかりにくいですが、これ以上は特に記述されていませんので、ここからは自分で考えなければならぬのですが、古賀先生にとっては「座禅と空手」が念頭にあった事は間違いないでしょう。

う。そして、もう一つは「感動」。「感動のない人生など、人生ではない」というのが口癖でしたし、「感動は頭でするものではない。感動は今までの人生の経験と、自分の身体全体による感受性によって生まれるものである」ということもおっしゃっていました。地球市民の会のキーワードが「心の汗」感動です。地球市民の会で活動する事「あかるく、たのしく、げんきよくなる事」のひとつだと言えます。さあ、はたして私たち地球市民の会はみなさんにそう思っていただけでいれ活動をしていてくれるのか、きつと古賀先生は心配そうに見守っている事でしょう。

ボランティアの日本語訳は？

「ボランティア」を日本語の単語にするとか何となるのでしょうか。「奉仕」でしょうか。これは英語で言う「サービス」となります。それでは「慈善」。これは「チャリティ」です。辞書で調べると「志願兵」と出ています。「ボランティア」の業界(と出ている)が適切だとは思いませんが、関わる方々によってもまちまちで、定義のようなものがあるのですが、「自発的に、自己完結を旨とし、自己責任によって他の人に尽くすこと、もしくは善行をおこなうこと」となりますが、これは文章で、単語ではありません。

古賀先生は「日本にはボランティアという精神はもともと民族のエトス(心的態度)として生来に備えられているもので、ことさら言葉にする必要もなかったから、ボランティアに相当する日本語は存在しない。そして、あえてそれを日本語にあてはめるならば『布施行』である」という事をおっしゃっています。

『布施行』については、平成五年「アイアム」時代、日本の人口が二億五千万人だったころ、毎年四〇〇五〇万人の農民が伊勢神宮に参りに行っていました。「お伊勢(おかげ)参り」です。当時、日本の九十%が米をつくる百姓であり(半農半漁、半農半商、など、いろんな職業の人兼業農家だったのです)、当時の日本人は一生に一度、「お伊勢(おかげ)参り」をするのが最大の夢で、人生最大のイベントでした。お参りする人はほとんどが決して裕福ではないので、わずかな路銀で野宿をし、儉約しながらの旅でしたので、伊勢神宮に到着するころはへとへと状態で到着します。一方、伊勢神宮周辺に住んでいた人たちは、私たちの方々が集まってきたりすると、なにかとありがたいたくさかさと感じておりました。自分たちが粟や稗を食べながら、道に小屋を設け、米の握り飯や草鞋、手ぬぐい、風呂、帰りの路銀などを無償で提供していたのです。これを「せきよう」(施行)といいます。

お伊勢参りが「おかげ参り」と言われるのは、伊勢神宮の御祭神が天照大神、太陽の神様なので農民にとっては豊穰の「おかげさま」を感謝しに行くからだと言われていますが、道中の多くの方々の親切な行為がなければ達成できなかったお参りに「おかげさま」と手を合わせる気持ちがあったからではないか。そして、その気持ちを生れ故郷に持って帰り、そこに住む人たちが助け合う生活をさらに強めていったのかも知れません。したがって、私たち日本人には「損得なしに助け合うこと」が当たり前となり、英語の「ボランティア」に該当する日本語をわざわざ作らなくてもよかつたのかも知れません。

「本当の豊かさ」文明

途上国の人々は経済的に貧しい生活をしているが、助け合いを基盤とした心豊かな社会の中で幸せに生きている。かたや先進国日本に住む私たちは、経済的には世界でもトップクラスの生活を楽しんでいるが、一方、多くの不安感の中で「幸せ感」に乏しく生きている。「心の豊かさ」と「物質的な豊かさ」、本当の豊かさはどちらだろう。

これは、古賀先生がいつも講演などで問いつけていた質問でした。この質問に対して多くの人は「心の幸せ」だと答えていたことでした。しかし、今の生活を逆行させる事は「無理な話」だとも思っていました。今の生活を捨て、携帯電話のない社会、停電が起こる社会、に戻りたいと思う人はほとんどいないと思います。古賀先生もそれを知っていて、戻る必要はないと考えていました。そうではなく、「自分の為に」という気持ちよりも「周囲の為に」という気持ちを少し上位に置く新しい文明社会を築けばよいとおっしゃっていました。これ以上自分の快楽や便利さを追い求めるのではなく、自らはすでに持っているという意識を持ち、より多くの欲を持つのなら、周囲の人を幸せにしたいという崇高な欲を追い求める人である新しい文明社会です。それが実現できるようにした時、日本は世界に対して私たち人間の新しい進むべきパラダイム「本当の豊かさ文明」を示す事が出来るのだと、古賀先生は夢見おられました。その夢を実現するための社会運動を進めて行く役割を持たされたのが地球市民の会であり、「本当の豊かさ文明」が皆が幸せを感じて生きていける社会の実現が地球市民の会の使命であり、それに共感していただいた方の集まりが地球市民の会の会員の皆さまというわけなのです。

本年も地球市民の会の活動のご支援とご理解をどうぞよろしくお願い申し上げます。

「古賀武夫を求めるのではなく、古賀武夫が求めしモノを求めよう」(佐藤昭二 地球市民の会会長)

(以下続く)

和顔愛語



佐藤 昭二

覚悟とは

平成23年3月11日私達にとって忘れる事の出来ない大惨事が有った。勿論東日本の大地震であり、それに伴う巨大津波で有る。

そして更にそれに伴って福島原子力発電所の事故が今尚暗い影を落として居る。

政府、国からの情報が何一つ信じられず、国民の皆さんは常に疑心暗鬼の日々が続いていたように思える。マスコミは常に恐怖感をあおり流れるニュースはネガティブな事ばかり。その中で福島原発の近くの人たち、又近隣の県、東京都の人達も、沢山の方々が県外・都外に逃げ出され、それは今尚続いている。原発事故の翌日には国外に逃げられた方も居た。それ程福島原発事故は国民の皆さんに計り知れない恐怖を与えたのである。

この度、野田首相は事故の収束宣言をされたが、この原発事故の終息は何を以って終息なのであるか？とても終息したとは思えない事ばかりである。私は阿蘇の南外輪山に位置する山都町の依頼を受けて、一昨年より「田舎暮らし」の相談を受けながら空き家調査をして居るが、3・11以降急激に都会からの入居者の相談が増えて来ている。幼い子供を抱えて、見えない放射能から逃げ惑う若い夫婦が来て居る。この方々が無事に故郷へ帰還するときがまさに収束であり、終息である。冷温停止状態達成を宣言し、これをもって原発事故そのものは収束したというのは、詭弁でしかない。

多くの方々がことほど左様に恐怖に耐えながら避難する状態の中でとても印象に残った方が居る。私の友人でもあり、とても尊敬する方で、「美内すずえ」という漫画家である。彼女の作品には「アマテラス」や「ガラスの仮面」等数多くの作品がある。彼女と震災以後についてお話をしていたときのことである。

その彼女が事故当初は自分もこの東京から逃げ出そうと考えていた様だ。しかしその時ふと、「天皇陛下

は如何されているだろう？」と考えた。まさにその時、陛下は皇后さまと一緒に東北の被災地の方々をお見舞いされていた事を知り、「とても自分の考えて居た事が恥ずかしかった」と述べて居られた。そして、今後天皇陛下が東京に居られる間は自分も東京で暮らそう、その間にもし此の身に何が有ろうとも、それは甘んじて受けて行こうと腹を決めた、という事でした。これは美内すずえさんが覚悟を決めたときである。私はこの話を聞いたときに深い感銘を受けた。「覚悟」の定まった人間はなんと力強く美しいものなのだ、と強く思ったのだ。

私達はこの「覚悟」が有るか無いかで、その人の人生が大きく変わって行く事を知らねばならない。力強く美しい人生を歩んでいくのか、そうでないのかが決められるからだ。それは男であれ、女であれ全ての人達に言える事ではないだろうか。

今の政治の世界においても、経済界における大企業の在り方においても、誰一人国民の悲しみ、辛さ、苦しみを背負っている人が居ない様に思う。全てが言い訳の世界になっている。綺麗な言葉だけを羅列してこの社会を乗り切っている。力強く美しいからはかけ離れた有様だ。私は人間として生まれて来た以上、私達一人一人が誰かを背負う覚悟を持たなければならないと思っている。それは一言で言うと「拝金主義・利己主義からの脱却」し、「誰かを背負う」ことで力強く美しく生きていくことである。

「誰かを背負う」ことが人間として生まれて来た意味だと思っている。この心を失くした時、親が子供を、子供が親を、妻が夫を、夫が妻を、そして兄弟が姉妹が殺し合う時代が来るであろう、否、すでにその時に入っている。教育の貧困の結果が形になって表れて来た、今からでも遅くは無い。お互いを思いやる心の発露が必要なのだ、私一人が…私から始める時が来た。まさに、地球市民運動である。そして、人生とは「馬鹿と貧乏と死の稽古」だ、という古い箴言に心傾ける時だろう。

東日本大震災、被災地は今、

佐賀から派遣されている松田さんは、派遣以前からパラソル喫茶活動などでNPO法人住民互助福祉団体ささえ愛山元を支援していました。宮城県の最南端で福島県との県境に位置する山元町にある居宅、訪問介護、通所の介護保険事業と、宅老、移送、雑用代行の介護保険事業外の6つの事業を行っているNPO法人です。震災で、デイホームと事務所を兼ねた施設は全壊し、デイサービスセンターも1階部分が大きな被害を受けました。そして、職員が3名、利用者が3名お亡くなりになり、また理事長の中村怜子さんは親御さんやご主人を亡くされています。しかし、その苦難に耐え6月に活動の再開を誓い、10月に施設を再開されました。その中村理事長の手記です。

『被災地を忘れないでほしい』

NPO法人住民互助福祉団体
ささえ愛山元 理事長：中村怜子

あの日、1000年に一度の巨大津波でかけがえのない命を失い、親しかった友人、知人を引き裂き、すべての財産を奪われ、不安と恐怖で過ごしたのは私だけではありませんが、これほど涙する日が続くとは…。

震災後、沢山の援助をいただきました。町の6割が被災し、仮設を用意していただき、又みなし仮設への家賃援助、公共料金免除などの公的援助、日本財団からの義援金、日赤の支援物資、高速道路使用料免除などの民間援助、又、個人援助など、着の身着のままの避難でしたので早い対応でした。中には配られた食事に、不平不満を言われる方もいましたが感謝にたえません。3月中頃から衣類、食事など援助いただき大いに助かったことが思い出されます。

そして、自衛隊が瓦礫の処理にあたって頂き、感謝の横断幕や手を振っている姿が、毎日のように見られました。ここは温暖な気候で災害など軽微でしたが、犯罪が横行し警察関係の警備姿もあり、守られている安心感がありました。不自由な避難所生活から仮設へと移り、5月末には避難所から仮設へ完了。自衛隊も帰り、小さい瓦礫は自分たちで処理しなければなりません。放射能云々もありますが、自分たちの町は自分たちで守る自治意識が目覚めてきましたが、肝心の区長たち、地域のリーダーが自分の生活のためにいない行政区もあり混乱していました。



前列中央：中村怜子さん

復興を遅らせている一つにはJRの問題があります。復元には時間がかかり、就学生にとっては喫緊の問題です。町外に引っ越した家族も多くいました。

山元町では、600人を超す方々が亡くなりました。海岸が1メートルも下がり、松林は枯れたままの状態です。「復元の計画あり」に、今後、ここで暮らしたいと希望が見えました。漁業、農業などの主幹産業が破滅状態で、復興にはゆるぎない復興計画とマンパワーが必須です。残された高齢者は、夢も希望もなく悲嘆するばかりですが、震災から9か月を経て、物資は充足している感じですが、傷を負った心のケアは、今後も続くことでしょう。全国からご支援を頂き、一步一步進むことができました。被災地を忘れないでほしい！



砂子啓子さんは佐賀市東与賀出身で結婚を機に仙台で過ごされていました。そして、今回の震災に被災され、家を失い、子供さんと佐賀に避難されました。その際、「自分は佐賀に逃げてこられたけど、それで良かったとは思えない。まだ、被災地で逃げることもできない人たちがいるんだから、佐賀から元気を送ろうキャンペーンでできることをしなければならぬ」と立ち上がり、地球市民の会とともに協力しながら活動をされていました。現在は仙台に戻り、できる支援をコツコツとされており、地球市民の会とも協力関係が続いています。

「できる人ができることをする」

iーくさのねプロジェクト
砂子啓子

窮地に立たされた時に、人の本心が見えます。予想もしない事態が平成の平穏な日本に起こりました。

街の復興は進んでいる所と手つかずの所の差が大きいです。佐賀の方が仙台駅に下り立っても、震災の後は読み取れないでしょう。訪れる場所や出会った人によってその印象は大きく違うことと思います。仙台へ帰ってから、「被災者」「被災地」と言っても状況は様々で、どこで何をすればよいのか、途方に暮れました。

しかし微力ではあっても、小さな子を持つ一般人の私が活動していることで共感してくださる方がいるかもしれない、と思い直しました。そして、「支援活動」から、「応援活動」と呼び名を変更したら私自身がホッとなりました。支援はできなくても応援は出来るからです。大変な思いをされている方に少しでも元気になって貰えれば、と、臨機応変に出会った方と関わらせて頂いております。佐賀で心配や応援をして下さる皆さんの存在がどれだけ私の活動の支えになっているかわかりません。



10月13日
塩竈第二小学校にて佐賀からの雑巾を届けました

佐賀に母子避難していた半年は非日常でしたので活動に没頭でしたが、こちらに帰ってくれば震災前に行っていた日常+応援活動となり、時間的な余裕がありません。佐賀で支援活動をされていらっしゃる皆様に頭が下がります。日常+αの仕事ですから。本当に大変なことだと思います。

誰もが辛いこんな時、「人事を尽くして天命を待つ」精神の方は深く覚悟が決まっています。案外事態が好転しているように思います。逆に、「できない理由」を連ねて動かない人は、どこに行っても何をしても不満が多く、周囲の人も悪い方向へ巻き込みます。とは言っても最愛のご家族を亡くされた方、職や家を失った方々の真意は計り知れず、それも本意ではないのかも知れません。いつか心にゆとりが出来た順に、少しずつ、です。

何かをしたい方と、それを受けて下さる方が、お互いに「関わってよかった」と思えるようなやりとりが出来たら、様々なことが良い方向に向かうのではないのでしょうか。古賀武夫先生が海外で「他の奴の支援は受けないがあなたの支援は受ける」と言われたそうですね。そんなことを言ってもらえるような活動ができたら本当に素敵です。

砂子啓子



9月12日
女川の小さな港半年経っても被害に遭ったそのまま

震災から10か月を迎え、私たちは被災地の方々の思いや様子を知る機会も減ってきました。その間、微力ではありながらも地球市民の会は佐賀県の心ある方々と共に「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」という支援活動を行ってきました。そして被災地から遠く離れた私たちが気になるのは、今の被災地の姿。そこで、12月下旬まで被災者のニーズを調べる為の調査に派遣されていたボランティアの松田義太さん、ほぼ毎月現地に赴き「いのちのまつりプロジェクト」を実施し被災された方々の夢を拾い集める大志さんの2名に外部者としての今をレポートしてもらいました。また、現地で被災された方の声もお聞かせ願いたいと、自身も被災者にも関わらず、支援活動に従事する仙台市の砂子啓子さん、宮城県山元町のNPO法人住民互助福祉団体ささえ愛山元の理事長・中村怜子さんに、今の様子をご執筆願いました。どの文章にも「忘れてはいけない」という悲痛な叫びを読む事が出来ます。まだ終わっていない震災復興を感じていただき、2012年をそれぞれの身の回りでの復活支援の年にしていきたいと思っています。

大志さんは白いハンカチに世界中の人々に夢を書いてもらって集める「夢ハンカチ」事業をしています。そして、大志さんと地球市民の会は協働で東日本大震災支援事業「いのちのまつりプロジェクト」を実施しています。毎月現場に入り、子ども達やお年寄りや夢について語り合っています。

『ここで私たちは生きている』

佐賀から元気を送ろうキャンペーン
いのちのまつりプロジェクト 大志

宮城に野蒜という地域があります。4月上旬に初めて訪れたこの場所は、線路が反り返り、流された電車が家に突っこんだまま。川にはお寺の屋根が浮かんでいて、学校には自衛隊の車がびっしり並んでいました。被災地というのはこういうところでした。今では線路も電車も撤去され川の中も捜索が済み、自衛隊の去った後の校庭には仮設住宅が建てられています。

そんな野蒜に『のんびり すみちゃんの家』というグループホームがあります。代表の伊藤壽美子さんは、津波の被害を受けた施設の代わりに自宅ホームを続けています。施設も自宅も津波の被害を受けながらも、少しずつきれいにしていたところに、9月の台風でまたもや浸水。せっかく掃除した床がまた泥だらけ。玄関を一步出れば目の前は変わり果てた町。近所の人はほとんど仮設住宅に移り、自宅の2階などで生活されている方もいるのですが、なかなか支援が届かず不安な日々。しかし、この場所でホームを続けるのには意味があるのだといえます。誰かが残って、ここにも生きている私たちがいるのだと声を上げることで、元の住民も、ボランティアや行政も、目を向けてくれる。

仙台から女川を結ぶ仙石線という電車が震災で被災し、現在は仙台から高城町、陸前小野から石巻が復旧しています。野蒜地区は、その高城町から陸前小野の間。いくら人が戻ってこようと、足がなくては生活ができません。元の場所に線路を引くか、もったい側に移すかという議論がされているそうですが、どちらにしても10年は復旧の見込みがないといわれています。

町が良くなるためにいろいろ動いている。でも何か足りない。夢ハンカチの話をすると、伊藤さんの顔がみるみる輝きました。

「そうそう、何か楽しいことしたいの。それいいわね、やって！やろう！！線路が通ることをゴールにしなくてもいい。それは私の夢。子供や大人たちから自由に夢を集めて、それをみんなの手で線路をつなげばいいじゃない！」

早速1,000枚の夢ハンカチを預けました。忙しい活動の中、少しずつ夢を集めてくれています。震災から1年が経とうとする2012年3月10日。被災地で夢をつなげます。



右端：大志さん その左：伊藤さん 右端：松田さん

『被災地でいま、一日一日を生きているということ』

『佐賀から元気を送ろうキャンペーン』
松田 義太

3.11東日本大震災により、被災地の方は多くの大切なものを失った。心身両面において、彼らが受けた痛みは計り知ることができない。私は震災発生から約9か月を経た被災地に滞在する機会を得た。仮設住宅、みなし仮設住宅へ支援物資等を届けながら、被災者の生の声を聞いた。時間の経過とともに、震災の記憶は否応なしに薄れていく。しかし、彼らは今なお苦しみのさなかにあり、生活もいまだ復興途上にある。私たちは彼らの現状を厳しく直視し、支援の手を緩めてはならない。

わたしは、気仙沼市、南三陸町、陸前高田市を訪れた。家を失った方々は、避難所暮らしから仮設住宅、みなし仮設住宅へと移った。外部から見れば、第一歩を踏み出したように見えるが、そこには厳しい現実がある。彼らが割り当てられたのは、1～2人の場合は1K(4畳半)、3～4人の場合は2K(4畳半×2)、5人～6人の場合は3K(4畳半×3)の部屋。戸を開けると、靴の置き場がないほどの狭い玄関。台所も約2畳、居間にはコタツが置かれ、夜はコタツを片づけてから布団を敷いて寝る。押し入れも狭く、物の置き場はない。

古い仮設は、阪神・淡路大震災時のころから使用されているものもある。原因のわからない雨漏り、横からも下からも冷たい隙間風が吹いてくる。業者に修理を依頼しても「次、雨が降らないとわからない」と言われ、呆れていた。

しかし、その状況下でも、部屋をきれいに整理し、温かい雰囲気ですべて迎えてくれる被災地の方々。でも、ひとたび震災の話になると、時折涙を流される。ある人は「今でも泣かない日はない。何もなくなった自分の家を見に行き、一日中声をあげて泣いた」と打ち明けた。日々、気持ちの浮き沈みが激しいという。

長いあいだ飲食店を経営していた男性にも会った。店も家も流され、生きがい無くし、将来の見通しが立たないいらだちで、元気がない様子だった。まわりからは再三、お店の再開を勧められるが、『簡単に「始める」とは言えない。お客さんに喜ばれるものを出したいから』という。全てを無くした中でも、確固たるプロ意識は失わない。

その方が、震災から9か月を経て初めて、ボランティアに弁当を作られた。私は縁あってその場に居合わせた。それまで見せたことがない最高の笑顔と真摯な眼差し。その一瞬を目にしたことに嬉しさがこみ上げてきた。この男性のように、被災地で全てを無くし、気持ちが折れてしまった人は数多い。彼らがもう一度、気持ちを直す事は容易ではない。彼らの為に何ができるのだろうか、自問が続く。

仮設住宅では少しずつ、自治会組織もできてきた。集会所ではお茶会、音楽会などが行われ、新たなコミュニティが形成されつつある。先日、ある仮設住宅の交流会に招いて頂いた。佐賀から届けた急須、湯呑、ホットプレートは大変喜ばれ、それが一つのきっかけとなってこの交流会が開かれた。女性たちは地元料理を一生懸命作った。ホットプレートで焼いた気仙沼ホルモンをつまみながら、「震災以来、久しぶりに楽しく飲めたよ」と喜んでおられた。しかし、ある方から「今日集まった方々の着ている衣類は、ほとんど支援物資だよ」と聞き、厳しい現実を引き戻された。

被災地はまだ復興の途上にある。そのことを私たちが直視することができなければ、彼らが背負う苦しみは今後さらに増すだろう。被災地に届く日用雑貨は被災地の人にとって、たとえそれが小さなものでも「まだ支援されている」「まだ忘れられていない」という心の支えになっている。物質的支援、心の支援、その他さまざまな支援が引き続き必要であることを、被災地を見た者として強く伝えたい。



今、被災地で求められること。私たちの出来ること。

遠く離れている私たちにとって、被災されている方が本当に何を必要としているのか、私たちが出来ること、すべきことは何か、そしてそれは、被災された方が未来へ向かって進んでいく為のお手伝いになっているのか、という疑問にいつも悩まされています。

そこで、現地で活動する砂子さん、大志さん、松田さんに現地で感じた上記の質問に対するそれぞれの回答をいただきました。

辛さを分かち合え、寄り添う事ができる人

被災された方々にとって必要なものは何ですかという問いに対して必ず出てくる言葉は『お金』と『仕事』でした。切実な思いとしては、それは疑いようのないものです。将来への不安、現実問題として起こっているお金の工面の問題は被災者を悩ませる大きな障害になっているでしょう。しかし、これらの問題は、私たちのようなボランティアな立場の者にとっては対応できる範疇を超えてしまいます。被災者の一番の要望がそれらであるのなら、私たちの出る幕はないでしょう。

とはいえ、復興が終わったわけではなく今まだ苦しんでいる人がいるのなら、それ以外の私たちにできることはきっとあるはずです。被災者の方々と接する彼らに、日常会話の中で被災されている方々が何に対してお金と仕事以外の要望があるのか探ってもらいました。

その結果出てきた意見を集約すると、

- 自分たちのことを忘れないでほしい
- 非日常なイベントなどがうれしい
- 些細なことの気持ちがうれしい

ということでした。これらから言える事は、『お金』と『仕事』という最優先課題はあるにしても、復興に厳しい日々を生きていかなければならない辛さを分かち合え、寄り添う事ができる人がいることも必要だといえるのでしょう。

ではそのような中で、被災地から遠く離れた地域に住む私たちができること

- 復興は成し遂げられておらず、支援はいまだ必要であると、できることを少しずつできる範囲で支援し続けること。

東日本大震災義援金約3,399億円のうち、約2,629億円（12月2日現在）77%が被災された方々に配分されました。宮城県における全損家屋1世帯あたり100万円、亡くなられた方一人当たり100万円です。仮設住宅に入っている方の額としては当座のしのぎになっても将来的な生活の不安をぬぐえる額ではありません。ですから、なかなか必需品以外にはお金を使えない状況です。そのようなわけで当然、必需品はどんなものでも今はとても有難がられています。松田さんは「サランラップなどは支援する側もそういったものは被災地の方も自分で買えるはずだ、と思われるかもしれませんが、被災地の実態を見ると、そういったひとつの支援品が「まだ支援されている」「応援されている」という重要な心の支え、励みになっています。「心の突っかい棒」を外さないためにも、日用雑貨は重要です。日用雑貨は高価ではありませんが、被災地の方々は将来の不安から、こうした「なくても何とかなる」という品物はあえて買わず、我慢しているのが実態です。こうした面からも、引き続き支援すべき物資として重視すべきです」というレポートをしています。自活のエネルギーを生む前向きな支援のためには頻繁な支援物資を提供することは自立の阻害要因になりますが、頻繁でなく、ほどほどに支援物資を提供することはまだ必要なことかもしれません。そのためには現地で遠慮せずにコーディネートできる人が必要です。

被災地に訪れること。観光であったとしても。

被災地以外の方が被災地支援にやってくることは、被災地の方々に非常に勇気と前向きな気持ちを生み出します。松田さんも「被災地の方々は、一度でもいいから現状を見てもらいたい、自分たちの話を聞いてもらいたいと切望されています。彼らに対し、わたしたちができることは、ひとりでも多くの人が現場に足を運ぶこと、だと思います。」とレポートされています。季節ごとイベントなどで被災地に参加者として訪れ、被災地の方のお話を聞くことだけでも大変役に立ちます。これは、滞在中にお金を地元へ落とすことも含め有効です。また、被災地ではどんなことでも手があれば助かるようなので、現地へ行行って活動をしている人の支援も必要です。

観光で訪れることも被災地の産業復興には非常に役立ちます。

忘れないこと。

たとえ未曾有の大震災であっても、時の経過とともに忘れ去られていくことは避けられません。ましてや、被災地から遠く離れた地で暮らすわたしたちにとってはならなおさらです。被災地の方々が抱えている困難はあまりにも大きく、息の長い支援が不可欠です。しかし、私たちが震災を忘れるスピード、震災が風化するスピードが被災地の復興よりも早まれば、見た目の町の復興というハード面は整備されていっても、支援すべき方々を孤立させ心の立ち直りというソフト面の復興を阻害してしまうかもしれません。私たちにしなければならない一番大きなことは、被災地のみなさんが「復興した」というまで忘れないでいることなのです。

（松田さん談）

『風評被害酒米でお酒を造り、その利益で仮設住宅支援を』 限定1,000本 予約開始予定！

宮城県登米の農家千葉伸一さんが育てている契約栽培の酒米が京都の大手酒造メーカーから風評被害を気にして全品キャンセルされました。大手企業としては仕方ない部分もあるでしょうが、契約生産農家は売り先もなしにお困りに。その情報を得たコープみやぎ生協理事の砂子啓子さんは「生産者を守らんバ」とハッピーストックの西村尚子さん（地球市民の会理事）に相談を打診。佐賀から元氣を送ろうキャンペーンで打ち合わせて炊き出し用とメンバーで消費するための米として買う方向性で動いていました。そんな矢先、西村一守さん（地球市民の会理事）が知り合いの天吹酒造さんにお話をしたところ、天吹さんでお酒にしても良いとの事。そこで、米600キロをお酒にすることとなりました。残り600キロは宮城県大崎市の一の蔵酒造さんがお酒にします。天吹と一の蔵のお酒を並べ、佐賀と宮城の原料一緒のお酒の飲み比べが可能となりました。

天吹さんは今年の福岡国税局秋の鑑評会 吟醸酒部門で最高位の大賞（局長賞）を受賞された酒蔵なので、安く販売するのは問題もあろうと、寄付つき商品として、収益は仮設住宅等の支援金として販売することとなりました。お酒の販売は井上酒店が免許の関係上窓口になっていただきます。吟醸酒で4号ピン 販売価格2,000円(予定)で1,000本販売します。販売予定は3月11日。名前もラベルもまだ決まっていますが、予約の受付を予定しています。

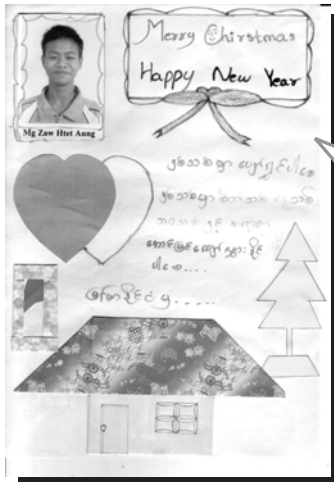
風評被害米の運送は㈱トワードさんが無料で受け持ってください。また、天吹さんは日本酒を作った後の酒粕でカストリ焼酎も作ってくれます。

ミャンマーから 新年のご挨拶

ミャンマー通信

ミャンマーのタンボジ寮のこどもたちが、ニューイヤーカードを送ってくれました。

タンボジサポーターの皆様には送ったのですが、かわいくできていましたので、ぜひ皆様にもミャンマーから新年のご挨拶を…



マウン・ゾーテッアウン

メリークリスマス・
ハッピーニューイヤー
新しい年が楽しい年になりますように。
新年を新しい心、新しい人、新しい人生で過ごせ、様々なことが成功する年になりますように。
ミャンマーより



マ・ウェイウェイリン

新しい年を、新しい心で新しい人として、成功する人生を過ごせますように。
健康で楽しく過ごせ、頂点に立てますように。
家族と一緒に暮らせますように。ありがとうございました。

☆ミャンマー事業紹介☆ ～NGOミャンマー駐在員の夢実現日記より～

今回は、現在実施中の緑の募金公募事業「ルエトー村における水源涵養林・学校林の造成及び植林教育事業」と、3月のツアーで訪問する「ナツカン村小学校建設事業」をご紹介します

ルエトー村

- 今日はルエトー村に行きました。
- タウンジーの北側にある村で、このたび緑の募金より助成を受けて、植林事業をすることになった村です。
- 村人や子どもたちに対する環境問題の研修、水源地や学校への植林、育苗ナサリー（植林用の苗を育てる場所）とナサリーのための水タンク建設という事業内容です。
- 研修で木の大切さを学び、実際に植え、翌年以降も村が主体になって続けていけるようにという構成になっています。
- この村では、水源の付近はお坊さんが中心になって木を保護していますが、保護されているところ以外は無計画に木を切って売ってしまっています。そのため、水の湧き出る量が減ったという報告があります。
- また、牛糞などが何も考えずに、邪魔だからという理由だけで森に火をつける習慣があります。すると、せっかく出てきた若い芽が燃えてしまい、いつまでたっても森ができずにいます。そのことについても、研修でしっかり話す必要があると考えています。
- 事業期間は2012年6月まで。それまでに未来に続く環境づくりの土台を築けるよう頑張ります！

ナツカン村

- 今日は、ナツカンという村に行ってきました。タウンジーからそんなに遠くない村です。
- ナツカンはセレーに向かう道路から少し横道に入り、山道を少し登ったところにあります。
- 道の状態が悪く、トゥンウィンさんが車を降りて押す場面もありました。
- 村に着くと、コミティーの人たちが集まっていてくれました。
- TPAの事業は初めての村ですので、TPAの活動内容紹介から始め、これからドナーを探すので支援決定ではないことや、TPAルール（建設費の25%は村が負担）についても説明しました。それから、村の困難や学校建設をどのように進めるつもりかなど、申請書をもとにいろいろと質問をしました。
- 学校は23年前に建てられた木の校舎のため、木は虫食い、屋根のトタンにもところどころ穴があいています。基礎もしっかりしていないので、柱が地面に沈み、少し床が傾いているところもありました。
- この小学校には、村に住む0年生から5年生の子もが通っていますが、校舎がせまく、部屋と部屋の仕切りがないために、他の学年の授業の音がまる聞こえになってしまいます。
- なんとなく、小さいころに通っていた公文式の教室を思い出していました。
- 公文式は、基本的には自分とプリントとの戦いですから狭くても良いのですが、ここは学校です。先生の声がしっかり聞こえなければ、勉強に集中することができません。



3月スタディツアー参加者募集！

「ミャンマーに学校を建てよう！ ボランティア&スタディツアー」

今回のツアーは一味違います！ご紹介したナツカン村小学校を2日間にわたって訪問、子ども達と交流し、学校建設事業と一緒に立案！国際協力NGOの仕事を体験できるボランティア&スタディ型ツアーとなっています！ナツカン村に行きたくなった皆さん、まだ間に合います！ぜひ一緒に行きましょう！

日程：2012年3月7日(水)～16日(金)8泊10日
参加費：会員165,000円

デジカメいただきました！

前回のネットワークテラで募集したデジカメ。早速2台のデジカメを送っていただきました。本当にありがとうございました！大切に現地に使わせていただいております！



- この村は、ポオー族の村で、山の上のためにタナベ（葉巻の葉）を作って生活しています。
- 約80世帯の小さい村で、車を持っている人はもちろん、電話すら持っている人がいないそうです。山の上の村はいろいろな面でハンデを負っていると思います。
- 道が悪いために、軽くて運びやすいタナベに頼った生活になってしまっています。
- 山の上でとても景色がよく、タナベを作っている割には山に木がたくさん残っています。
- タナベは葉を乾燥させるために薪をたくさん使うので環境問題になりやすいのですが、この村では使った分は植えるということで植林をしっかりとこなっているようです。
- そのため、水が豊富にあり、水力発電で少しの電気が来ているようです。（とはいえ、各家庭に蛍光灯1つずつくらいのものでした。）
- 新校舎のために村が負担する金額はどう捻出する計画が聞くと、各家からタナベを集めて、それを売って現金にすることでした。また、奨学金事業もやりたいということでも聞くと、アボガドを各家5本ずつ共同農園に植えて、その実を売って基金を作るという計画でした。
- 竹の校舎のティーブー小学校などに比べるとマシですが、この狭い教室はさすがにかわいそう…と思ってしまいます。
- だいたい130万円くらいで60フィート×30フィートの学校を建てることできます。
- まだドナーが見つかっていませんので、興味のある方は是非ご連絡ください！！
- とっても眺めが良く、村人も優しい素敵な村ですよ～。

「里親さん同士の交流を持ちたい」「タイやスリランカの様子をもっと知りたい」という声を頂き、スタートした里親の会。これまで、タイカレーを食べる会、映画鑑賞&タイスイーツ会、留学生によるタイ料理教室、絵手紙を書く会などを行ってきました。里親会員さん、留学生、国際交流に興味のある方々…たくさんの方々に参加して頂き、想いを交流できる場、新しい出会いの場、活動を知って頂ける場となりました。

12月、1年のしめに行った2つの里親の会☆ここでは、その様子をお伝えいたします♪

We ♥ Thailand ～タイ料理を食べよう！留学生と交流しよう！～

12月3日（土）@赤松公民館

- * タイカレー & 揚げ春巻き & ブアロイ(スイーツ)料理教室
- * クラフト商品販売
- * みかん & カレーペーストチャリティー販売
- * タイ洪水被害に関するDVD鑑賞、パネル展示
- * タイ訪問プログラムの写真展



わいわい料理中♪



募金もたくさん頂きました★



本格タイ料理！揚げ春巻き★



タイ人留学生より終わりの挨拶

『10月から続いているタイでの洪水。被害を受けられている方々に対して、何かできないだろうか。』という想いで開催した今回の里親の会。タイのことを知って頂きながら、タイをみんなで応援しよう！と、佐賀大学のタイ人留学生たちと一緒に取組みました。50名を超える参加者に来て頂き、とても賑やかな会となりました。



54,000円の寄付をお預かりしました★

留学生を通じて、
浸水被害を受けた
カラシン県と
パトナ二県の学校へ
寄付をいたします。



当会の奨学金事業を実施しているタイ東北部ウドンタニ県・カラシン県の学校では直接的な被害はありませんでしたが、バンコクへ出稼ぎに出かけていた方々が、仕事がなく、戻ってきている状況があるようです。親が職を失うと、子ども達への影響も出てきます。現地の先生達から情報を頂きながら、見守っていきたいと思っています。

昨年の3月の東日本大震災以降、世界中から日本へ、多くの寄付、応援のメッセージが届けられました。当会が、奨学金を支給しているクーキャオ校、ボーグウ校からも、寄付を受けました。

先生達、子ども達、そして村の人々が出し合ってくれたそうです。

今回の里親の会は、人を思いやる心を世界に広げていきたいという想いをみんなでひとつにできたと感じています☆

絵手紙で年賀状をつくらう！

12月10日（土）@地球市民の会事務所

- * クリスマスカード&年賀状づくり

絵手紙の先生をお呼びして、タイの子ども達に年賀状を書きました。サンタクロースに色付けするところから始まり、カブや花の絵、そして、自由に絵を書き、メッセージを添えました。5名の参加者がそれぞれ心のこもった絵手紙を完成させていました。



2012年も里親の会を開催していきたいと思います。「こんな事をしたい」、開催場所や時間帯の希望などのお声、お気軽にお寄せください。皆さんと一緒に楽しい会をつくっていききたいと思います。里親の会でお会いできること、楽しみにしております♪

ベジボーイズ主催の感謝祭

大盛況



佐賀市富士町上合瀬集落の若者3人で4月に結成した「ベジボーイズ」。年間を通して、地域貢献事業（草刈りなど）、耕作放棄地復活プロジェクトや都市と農村の交流事業を進めてきました。その間にも賛同者が集まり、現在はメンバー16名の組織になりました。

そこで、11月26日（土）は4月に結成してから地域の方々に大変ご協力をいただいたことに感謝の気持ちを込め「感謝祭」としてお招きしようということで開催しました。

佐賀市内からも4家族14名の方が参加してくれました！地域からも大人から子どもまで来てくれて総勢60名で交流を行いました。

参加者全体の8割ぐらいは地域からの参加ということで今年1年間のベジボーイズの活動を理解し応援してくれたという感触でした。

感謝祭では、菜種まき（来年5月には菜の花が咲く予定です！）、玉ねぎ植え、パーベキュー（今年収穫した新米）を行い、今年1年の恵みに感謝をしました。



何より嬉しかったのは、参加者と地域の人からのコメントでした。

- ・「参加者や外部の方々や地元の方々みんなが楽しみで、また会いたいな～と思われる取り組みに出来るように、いつも聡明にアンテナを上げていたら必ずベジボーイズのファンは広がっていくはずです！期待しています！」
- ・「最初はただのイベント組織と思っていたが、活動を見ていくうちに地域のためを思って将来の子どもたちを思って動いているのが分かり、応援したくなった！」
- ・「みなさんが実施する活動であれば参加したい！手伝いたい！」

という声が多く上がり、感謝感激でした！ベジボーイズから大事なのは続けていくこと。この1年で活動の流れなどが少し見えてきたので、来年は地元の方々や関わってくれる方々ももっと嬉しい！楽しい！と思ってもらえるような活動を行なっていきます！

地球市民の会 副会長 草場一壽 初のエッセイ集発売

草場副会長が原作の絵本『いのちのまつり』は2004年に刊行されてからロングセラーを続け、シリーズ3部作で30万部突破しました。小学校3年生向け「道徳」の副読本にも掲載されています。

草場副会長の「いのちの講演」も全国各地で大評判ですが、その内容も含めたエッセイ集に初めてチャレンジしました。故・古賀武夫 地球市民の会前会長の思い出や地球市民の会についても記述されています。(第6章 一日一生 地球市民の会～古賀 武夫の生き方～)心にじんわり染み渡る内容は温かくて読みやすく感動的と評判です。

(内容)「いのちって、なに？」って、子供に聞かれたら、何と答えたらいいのでしょうか？「なぜ、いのちは大事なの？」思春期の子供にこう聞かれたら、あなたは何と答えますか？その答えのヒントが、この本の中にちりばめられています。



毎日がいのちのまつり

著者：草場一壽

サンマーク出版

定価1,365円(本体価格1,300円)送料別途

地球市民の会事務局で販売しております。お問合せ下さい。

ロングセラーの絵本

『いのちのまつり』 『いのちのまつり つながってる!』

『いのちのまつり おかげさま』

各刊 定価1,575円(本体価格1,500円)も、事務局で販売いたしております。



東日本大震災支援チャリティCD紹介



東日本大震災支援チャリティCD「いのちのまつりプロジェクト～ぼくらの夢天まで届け!～」完成しました。

その一枚が、被災地の子どもと佐賀の子どもの心に新しい夢の灯を点します。

このCDはドリームアーティスト大志さんの活動に共感した佐賀の旅をする合唱作曲家・弓削田健介さんがプロジェクトソングを作詞作曲し、作りました。ジャケットの絵は佐賀が誇る陶彩画家・草場一壽さん(地球市民の会副会長)が描いています。

大志さんは東日本大震災の被災地の子ども達を訪問し、子ども達がどこかに置き忘れた夢をもう一度思い出し、そしてその夢を子ども達にハンカチを書いてもらい、そのハンカチを富士山の山頂に運び、被災地の子ども達の夢を天に届け、夢のデータを宇宙航空研究開発機構(JAXA)の協力

でロケットに載せ宇宙ステーション「きぼう」に届ける「いのちのまつりプロジェクト」という活動をしています。収録された1曲目「Dream&Dream ～夢をつなごう～」は、この事業の応援ソングです。大志さんは被災者の子どもたちを訪問する際にこの曲と一緒に合唱してもらい、その地で録音をしながら、最後は一万(?)の大コーラスにします。この曲も宇宙ステーション「きぼう」に届けられます。

このCDの収益は「いのちのまつりプロジェクト」のハンカチなどの資材や活動費に使われます。

CD「Dream&Dream ～夢をつなごう～」を地球市民の会事務局でお預かりしています。

一枚1,500円(税込。送料別)です。プレゼントにいかがでしょうか？

その一枚が、被災地の子ども心に新しい夢の灯を点します。

協力者一覧

※2011年10～11月まで

正会員

中本 正一
大野 勝
古賀 洋子
古賀 慈猛
古賀 友大
岩永 清邦
戸田 玲子
藤瀬 伸恵
江口 恵美
野田 誠
久保 正敏
坂井 善徳
八田 康博
北原 壽豊
堤 加奈子
徳永 清孝
野口 翔平
古川 昌宏
牧瀬 弓子
本村 満江
宮地 普工
古賀 大之
内田 泰
山下 定美
溝上 茂
福岡 資磨
山下 伸二
中村 元
藤戸 博
前田 伸二
堀口 勝郎
夏秋 葉子
鍋島 拓磨
土井 美智子
岩崎 正
馬郡 有子
古川 弘典
古賀 康宣
久垣 力也
近田 真知子

特別賛助寄付会員

小林 敏孝

購読会員

牟田 泰明
相島 博文

賛助寄付会員

福井 文一郎
馬場 憲治
音成 日佐男

書き損じハガキ・古切手

つつみクリニック耳鼻咽喉科
(株)損害保険ジャパン
井上 祥代
神野町郵便局
磯部 芳子
松尾 千秋
鍋島 幼稚園
満岡内科消化器科医院

タンポシサポーター

福岡黎明ライオンズクラブ
西山 峰次
篠原 隆法
唐澤 利夫
インターアクトクラブ
2700地区指導者講習会

シショダヤ

松谷 清志
矢新 教子

ミャンマー事業寄付

株式会社オキローボ
森 誠
十一二会 野田

団体賛助寄付会員

佐賀銀行秘書室

支援金寄付

明治タクシー(株)
小楠 フミ
内田 信子
つばさの会
佐賀県CSO推進機構
佐賀ボーイスカウト第5団育成会
会長 森田勝登
久保泉青年部
チャリティ寄席
福田寺 東成燧
矢新 教子
だいでんいっしょ
プロジェクト にわか
だいでんいっしょ
プロジェクト 武 雄
だいでんいっしょ
プロジェクト 伊万里
だいでんいっしょ
プロジェクト 神 崎
だいでんいっしょ
プロジェクト 嬉 野
だいでんいっしょ
プロジェクト 槐 心
はっぴいかむかむ
東津商店
大島 あかね
にわかと音楽でつながる
いのち in鹿島実行委員会
西九大グループ復興支援隊
特非)国際協力NGOセンター募金
旅館あけぼの
満天酔市 加藤均
株式会社トワード

クーキャオ中学校

愛野 良治
阿部 礼子
荒木 貴史
池田 サチ子
板垣 道代
井上 弘子
インターアクトクラブ
2700地区指導者講習会

内山 治郎
浦郷 めぐみ
江頭 泰子
江口 恵美
江口 典子
榎田 智子
榎田 智津子
榎田 奈保子
円城寺 久好
大野 圭子
岡 大雅
緒方 あかね
貝通丸 直子
川崎 朋子
川崎 朋子
木下 博和
倉富 博美
桑原 賢太郎
古賀 由紀子
櫻井 淑康
佐藤 基子
澤山 忠澄
篠原 隆法
白井 憲一
千住 泉
田久保 克明
田寄 正義
千々和 美香
中島 文子
中村 志津香
南里 玲子
西山 峰次
納江 幸利
野内 直穂美
馬場 佐和子
馬場 龍之介
原田 典子
樋口 啓子
彌富 和枝
平川 恵里
平嶋 トキ子
平野 京子
平野 朋子
古野 眞美
別頭 照代

寶泉 正美
細貝 睦子
本弓 康澄
前田 綾子
真崎 健次郎
真子 ハマ代
松尾 慶子
的野 直喜
宮地 信文
武藤 鼓
森永 勝馬
山口 則子
山下 雄司
吉田 じゅんこ
佐藤 邦彦

クーキャオ高校

大串 千和子
林口 多江子
古賀 大之
江頭 泰子
松枝 和代
千住 友二
小松 重輝
佐々木 佳寿子
野内 直穂美
森永 勝馬
大塚 寿美雄
青柳 光美
内山 治郎
大野 博之
西山 峰次
祓川 清美
加藤 由紀子
円城寺 久好
吉井 英隆
松林 久美子
納江 幸利
的野 直喜
前田 綾子

ボーゲウ校

石川 祥子

池田 サチ子
田中 亜矢
亀井 一恵
稲葉 田鶴子
吉井 学
松林 久美子
吉田 純子
寺戸 純子
戸田 玲子
吉田 史郎
江口 はる美
亀井 一恵
戸田 玲子
福井 文一郎
西山 峰次
愛野 良治
前田 勝美
納江 幸利

ばん・たわん寄付

真子 ハマ代
松林 久美子
馬場 佐和子
相川 八重子
百田 直美
森永 さとみ
相川 八重子
市川 佳代子

その他

宮島 町子(文具等)

※順不同で掲載させていただいております。

※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

認定NPO法人 地球市民の会 女性理事 公募

地球市民の会は来年度4月以降の組織運営に当たり、組織に瑞々しい感性と新しい発想を呼び込むために女性の理事を公募いたします。他薦、自薦を問いません。地球市民の会の活動を通して、笑いに満ちた新しい世界を広げてみませんか?

職務：地球市民の会の経営参画および意思決定参画

資格：地球市民の会の理念に賛同いただける方。非会員は会員になっていただきます。

条件：月に1度の理事会に参加。各種地球市民の会事業への参加

待遇：報酬その他はありません

任期：2年ですが、継続は可能です。

現在、女性理事が一名となり、女性一人ではお寂しくされていますので、是非お力をお貸し下さい。
詳しくは事務局までお問合せ下さい。

武ちゃん語録

「信」とは、人が人として生まれてきた根本を自覚することである。
「志」とは、「信」を実践することである。

理事長 江打正敏 新年のあいさつ

..... 托鉢の行



古賀さん（創始者古賀武夫）は残され私達に「托鉢の行をせよ」と言っているのかも知れない。托鉢と言うのは乞食です。これを行なうと辱めを受ける。それを忍ぶことによって人間が出来る。人の情けが解る。人生の道を覚える。

平成 16 年に書かれた夢の学校の設立趣意書には「自利利他」の精神が説かれている。「友の憂いに我は泣き、我が喜びに友は舞い」という人々が一人でも増えてほしいとも書いてある。この土台の上に立って「世界の同志と連携し、つよく、やさしい」地球維新の志士をつくろうと呼びかけている。一つの仏教世界をつくろうというのである。これには、精進、修行を要する。物欲に満ちた世界で育てられた現代の私達にそれが可能であろうか。毎日のテレビに写し出される飲み食いの様は欲望を助長するものばかり。わずかでも自分の欲望を抑えて食べ物でも我慢をすれば東北の人々の耐え忍んでいる姿が理解できる。アジアの人々の苦難がわかる。それが人間の心、仏教の世界である。すべからく托鉢をせよと古賀さんは言っているのかも知れない。夢の学校づくりはそこから始まると。

《未来会議》

設立から丸 6 年を経て、将来の夢の学校の方向を求め、皆の叡智を結集して未来会議を重ね、年度内には方針を決める予定である。



夢の学校をつくる会 10～12月のご協賛者

内田裕二様 LDD Project 様 夢の学校&フレンズ様

子どもの言葉

お金を
あげるといい

やさいを
あげる

せんそうを
やめる

あまり人を
ころすような
ひどいことを
やめる

水を少なく
つかう
(水などのめない)
(国の人がいるから)

日本と全国が
きょうどうせいにかつ
にする

地球丸ごと「わ」になろう!!

2011 年 10 月、貧困をなくすために立ち上がる世界同時イベント「スタンドアップ」(STAND UP TAKE ACTION 主催)に地球市民の会の提案で和道流古賀空手道場と夢の学校の子も達が参加しました。「和道流」の「和」と「平和」の達成のため「みんなで協力しあっていこう」という願いをこめた「和」を囲んで空手着を着用し立ち上がりました。その時の写真がなんと 900 件以上の報告の中から「ユニーク STAND UP フォトコンテスト」を受賞。表彰されることになりました。日頃から地球市民の会の方々にタイやミャンマーなど世界の子ども達の様子や飢餓・貧困のことを教わっていますが、どうしたら「平和」になるだろう?どうしたら「貧困」がなくなるだろう?と考えるまたとない機会になりました。子ども達が考えた言葉を拾ってみました。

スタンドアップテイクアクション「ユニーク STAND UP フォトコンテスト」受賞



せんそうの
りゆうを
作らない

ほ金をする

かくへいきを
つくるお金などで
すくう

こどもを
安全のところに
ひなんさせる

畑を作って
やさいを
そだてる

せんそうでなく
じゃんけんできめる

こどもの
家をふやす

日本や
いろいろな
国が助け合う



道場通信

和道流
古賀道場

新年あけましておめでとうございます。

和道流空手道古賀道場は今年も多くの方々の応援、支援、声援をエネルギーとし、元気いっぱい頑張っ
てまいりたいと思います。

新年最初のネットワークテラは、そんな古賀道場の応援者、協力者の中から指導員を代表して吉村直
記先生に古賀道場についてを、そして、あたげ会を代表して副会長の塚本みな子さんにあたげ会につい
て語っていただきました。

より古賀道場をご理解いただける機会になればと思います。

武士道精神で子どもたちを育む

古賀空手道場正指導員／七賢人の里おへそ保育園 園長 吉村直記



私は、古賀道場で4歳から英語を始め、5歳から空手を始めた根っからの道場っ子です。

空手は今でも現役で続け、現在は、空手道場の指導員を務めさせて頂いております。

古賀道場は、空手を習う場所でもあります。空手が上手になることのみを本来の目的としていません。空手を通じて「つよく、やさしい心」を学び、人としての在り方を学ぶ、まさに「人間力」を育てる道場です。

古賀道場20周年記念式典にもご招待し、俳優で武道家としても名高い藤岡弘氏は、あるインタビューで、若者に向けて、次のように語っています。

「いまの日本人、とりわけ若者たちになが欠けているのかと考えると、先達が残してくれた偉大なる精神文化・武士道こそが欠けているのではないかと思います。修行は、自己分析の旅へとひろがってきます。己の足りないところ、弱いところが見えてきます。『武士道』は、己の心身を強化し、我慢を重ね、調和をはかり、そして弱いものを守るための修行なのです」と。

故古賀武夫先生も同じく、武士道精神の必要性を訴えてきた一人でした。

心身の強さがなければ、「人のため、世のため」に生きることはできません。その鍛錬が空手道であり、武士道だと私自身感じています。

現在私は、佐賀市内の保育園園長として毎日子どもたちと関わらせて頂いておりますが、現代の人材育成の鍵は、私たち大人が「人間力」とは何かということをもっと追究し、子どもたちの見本となっていくことだと思います。

小さい頃から古賀道場で、武夫先生の背中を見ながら学んできたことを、指導員としてまた、教育者として伝えていく責任と誇りを持ち続け、次世代の子どもたちを育むお手伝いができればと思っています。



あたげ会とは？

あたげ会副会長 塚本 みな子

新年あけましておめでとうございます。和道流空手道古賀道場と古賀道場あたげ会は今年も変わらず子ども達の健やかな成長と、そして大人の方の健康の為にによりよい道場を目指して行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

そもそも、あたげ会とは何ぞや？

あかるく、たのしく、げんきよく、の頭文字をとって名付けられたこの会、空手道場の生徒さんの保護者の方々、そして一般の生徒さんが会員です。

年に一度の総会、そして数回の役員会を通し、生徒さんを支援するための方法を協議しています。

具体的には、道場の補修工事が必要となった時のための積み立てや、福岡大会などの遠征時交通費の補助、その他活動費の補助を行っています。また、毎年恒例となっている佐賀県大会実行委員会のメンバーとして運営のお手伝いなどもしています。

このように、多方面から道場生のバックアップに努めておりますが、それを支えているのは、道場生の皆さんから毎月いただいている、あたげ会会費です。有意義かつ透明性の高い会費の運用を目指していることは言うまでもありませんが、会の活性化、ひいては道場の活性化のためには、役員以外の会員の方々からのご意見もたいへん重要です。

今後は、皆さまのご意見をできるだけお聞きし、また、会の活動に対しより一層のご理解とご協力を得るべく、会員相互の親睦を深める機会を増やしていくことも必要ではないかと考えています。

今年は道場と道場生のためにはもとより、さらに活発な活動を目指してがんばってまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

「英語劇というもの」

毎年十二月は古賀英語道場の英語劇のシーズンです。道場創立以来続いていて、今年で三十二回目を迎えました。今年度も一年の英語学習の集大成として各クラスが大成功をおさめることができました。

今回出場した九クラスとも、担当の先生の指導のもとで一丸となり九月から少しずつ準備・稽古・リハールというステップを踏み十二月の本番を迎えました。小道具・大道具・衣装も揃えて、沢山のお客さんの前で英語劇を発表することができました。このような大舞台に立つことは自信にもつながるし、製作りの過程の中ではそれぞれの役目を果たすことで、責任感や協調性などを学んでいくことができます。また、生徒一

人ひとりのキャラクター（個性）を生かして、自然な会話や感情表現ができるように指導していきます。気持ちのこもった「生きた会話」が身につきます。ただ単に英語学習をするだけではなくて、表現力やコミュニケーション能力まで育むことができる総合的な学習が英語劇ではできるのです。

近年では英語学習に関して、ネット活用、eラーニング、CDやDVD教材などのデジタルなメディアが進化していつています。そんな中で、改めて英語劇のようなアナログの教育が求められているのではないのでしょうか。英語はコミュニケーションの道具である以上、人と人の生のつながりの中で習得していくものです。人に出会い、人と話し、お互いに感じ合い、感動を分かち合っていくことが、

英語教育に限らず人間形成にとって一番大事なことです。英語をいくら使える人間を排出しても、中身が育たないと英語が使える意味がないのです。

僕は二〇〇八（平成二十）年七月に、英語教育という枠だけではなく人材育成に携わる思いで帰国しました。早くも三年半が過ぎ、最初は理解に乏しかった人達が少しずつ変わっていき、関わっている様々な団体での活動もつながりはじめています。

最近では、十一月二十七日付けの佐賀新聞の県政特集（別紙）にて「若者が考える国際化」という座談会の記事が大きく掲載されました。僕は実質、世界を歩いてきた佐賀人として、佐賀新聞社編集局長の富吉賢太郎さんによるコーディネー

トのもと、これから世界を舞台に活躍していく若物たちと熱く語り合いました。僕の思いが通じる人達がいるということに安心し、これから理想とする人材育成を続けていきたいと思いました。その中で、英語劇は欠かすことができない存在です。

英語劇を人前で演じることで、楽しんでもらう体験を得ることは、これからの人生の糧になることは間違いないありません。観ていただいたお客さんも、英語を一生懸命に全身で発している生徒さん達の姿に感動していただけたことでしょう。今年も昨年同様、生徒さん達を大変誇りに思い、また感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

英語的思考の スス× vol.7

古賀英語道場代表の青柳達也による連載コラムです。
英語教育とグローバル人材教育というテーマについて、
色々な視点から世の中を見つめながらコメントしていきます。

1月～3月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場
★は夢の学校の行事です

●ミャンマースタディツアー

日程：3月7日(木)～3月16日(金)

●「だいでんいっしょ」プロジェクト 佐賀子ども大合唱

日程：3月31日(土)
場所：佐賀市文化会館中ホール

♥第3回 江北さわやかjr.空手道大会

3月18日 日曜日
場所：江北町ネイブル

♥古賀英語道場 英語カルタ大会

3月17日(土) 9:00～
3月28日(水)～29日(木)
グローバルエジュケーションプロジェクト(大分県別府市)

♥生徒募集説明会

第1回 3月10日(土)13:00～
第2回 3月17日(土)11:00～
第3回 4月1日(日)11:00～

●3・11復興支援 チャリティーフェスタ

日程：3月11日(日) 場所：アバンセ

♥守礼堂杯

第9回和道流空手道佐賀県大会

2月18日 土曜日 場所：佐賀市立体育館

♥はまなす杯

第6回全国中学校空手道選抜大会

3月28日(水)～30日(金) 場所：北海道北広島市

♥平成24年度 春期昇級審査会

3月24日 土曜日
場所：道場



♥武桜会

3月24日 土曜日
場所：道場

★夢の学校オープンタマテ箱

3月上旬

★第2回夢の学校タマテ箱修了式

3月30日(金)



スタッフの
ひとこと

東日本大震災支援事業進行中です！「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」
ホームページで活動をご確認下さい！ <http://www.genkiokurou.jp/>

新春大喜利に挑戦

『お正月』にまつわる事をお題に【なぜか】をして下さい！例えば…「龍(辰年)」とかけまして「2012年の運氣」と解く、その心は！どちらも「天まで昇るでしょう」おあとがよろしいようで…。

地球市民の会

- 大野 博之** 「お餅」とかけて「夢」と解く。その心は！「あつくなる程にふくらんでいく！」今年もあつくまいりましょう！！
- 江口 恵美** 「お正月」とかけまして、「誕生日」と解きます。その心は…「うれしいやら…悲しいやら…微妙の一年の始まり！！」お粗末さまで。ふつつかものですが、本年も宜しくお願いします。
- 岩永 清邦** 「新年」とかけまして、「人の生き方」と解きます。その心は…「すべては新年(信念)から始まります」2012年は自分の信念を振り返りながら進んでいきまーす！！
- 藤瀬 伸恵** 「本年の干支」とかけまして、「青柳先生」と解きます。(ハイ、みなさんもうお分かりでしょうか)その心は…「辰や(達也)～!!!!!!」大爆笑をいただいたところで、本年も単純で素直なのので頑張ります！！
- 戸田 玲子** 「初夢」とかけまして、「家政婦のミタ」の松島菜々子と解きます。その心は、どちらも縁起(演技)がいい！(By藤瀬)テレビ無し子の私が考えたネタでないことは、すぐにお分かりになられたでしょう(笑)今年も、皆さんから助けを頂きながら、頑張っていきます！！

古賀英語道場・空手道場

- 古賀 大之** 「お餅突き」とかけまして、「良い就職」と解く、その心は！！どちらも「捏ね(コネ)」が大事でしょう！！2012年も厳しい就職状況が続くそうですね。就活に動んでいらっしゃる皆様、ファイト！！イッパーツ！！
- 古賀恵美子** 「おせち料理」とかけまして「古賀道場」と解く、その心は、どちらも「和」が基本です。今年も和道流古賀道場をよろしくお祈りします。
- 古賀 洋子** 「お正月」とかけて「アートネチャー」と解く。その心は…「発毛デー(はつもうで)」ごめん、〇〇さんの顔をみたら、「ピンッ！！」ときてしまいました！
- 青柳 達也** 寒い日とかけて、うるさいバイクと解く…その心は、性能のいいマフラー(和製英語と英語)で対応しましょう。英語ネタにしたかったのですが…なかなかうまくいかなかったでR。

夢の学校をつくる会

- 吉村 薫** 「おせちのお重」とかけまして、「夢の学校」と解く。その心は！どちらも「タマテ箱」でしょう…、我ながら傑作？今年も夢の学校をよろしくお祈りします。
- 高柳 哲也** お正月に毎年頭を悩ませるのが「お年玉」。そこで、「お年玉」とかけまして、「教育熱心な親」と解きました。その心は…、どちらも「ガク」が気になるようです。今年もホームページ更新頑張ります。
- 山口 紀子** 字の汚い年賀状とかけまして、かゆい背中と解くその心は…思ったところに届きません。今年はお習字始めようかな。

地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長／阿部功 事務局／新保知博
TEL・FAX: 0133-74-1296

■地球市民の会ふくしま
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1
(株)石黒
会長／事務局担当 石黒秀司
TEL: 024-959-6426
FAX: 024-959-6577

■地球市民の会東京
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長／有澤正典 事務局／佐藤敏行
TEL: 03-3662-0331
FAX: 03-3662-0400
E-Mail: arisawa@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長／近田真知子 事務局担当／伊吾田善行
TEL・FAX: 045-622-9661
E-Mail: port@tpak.org

■地球市民の会ぎふ
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長／森幹治 事務局担当／平井八重子
TEL: 058-391-5415
FAX: 058-391-8600

■地球市民みえの会
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F
津市市民活動センター内
会長／伊藤洋之 事務局担当／秋葉幸信
TEL: 059-226-5700
FAX: 059-224-8911
E-Mail: miemiemie21@hotmail.com

■地球市民の会京都
〒605-0873 京都市東山区下島町484
会長／宮川尚子 事務局担当／西田一貴

■神戸ノ戸有頂天倶楽部
〒657-0045 神戸市灘区下河原通3丁目4-3
会長／松元隆司 事務局担当／大西陽治

■愛媛地球市民の会
〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町
入野859-1
会長／森高康行 事務局担当／丹生谷久久

■北九州地球市民の会
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長／河野一郎 事務局担当／大山研児
TEL: 093-521-8181
FAX: 093-551-2296

■地球市民の会福岡
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
(株)増屋内
会長／増田誠司 事務局担当／西村和寿
TEL: 092-801-5888
FAX: 092-801-5789

■(特活) コミネット協会
〒861-8039 熊本市長瀬南2丁目5-31
会長／池永憲貞 事務局担当／富田、田中
TEL・FAX: 096-387-7139

■古賀英語・空手道場
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-25-2295
FAX: 0952-26-4922

■夢の学校をつくる会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-22-6262
FAX: 0952-26-4922

ネットワークテラ 冬号 VOL.145

発行／
認定特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822
佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ: <http://tpa.nk-i.net>
E-mail: office@tpa.nk-i.net
TEL: 0952-24-3334
FAX: 0952-26-4922
発行日／2012年1月27日
発行人／佐藤昭二
編集人／地球市民の会 事務局
印刷／株サガブリんテイング